

寺屋敷と誠願寺

(鳥井町)



今から七百年ぐらい前のこと、関東の方から戦いに敗れた一人の武将が鯖江まで落ち延びて来ました。

その頃、王山では親鸞聖人の五男、道性上人が上野別当(車の道場)で、荒廃した人々の心を救うために、

「ひたすら南無阿弥陀仏とお念仏を唱え阿弥陀仏を信じなさい、信ずる者には、現世(ただ今から)から、限らない幸福が与えられます。」と説法されていました。

大勢の信者のまじって道性上人の教えを聞いていた落武者は、大いに感銘して早速その弟子にしてみらい、仏門に入りました。そして、名を浄観と改めて、日夜学問修行に励み、師の道性上人のもとで真宗念仏の教義(宗教上の教え)を説き明かすまでになりました。

その後、浄観は、当時栄えていた鳥井村を布教(宗教を広めること)の拠点として、親鸞聖人の教えを一般の人々に分かりやすく話したので、たちまち人々の信仰を集め、鳥井村の念仏道場(後、誠願寺とあらためる)は、近在の当田、野田、和田、山室は言うに及ばず、遠くは福井、武生、越前海岸からも信者が集まってきました。

しかし、鳥井村は日野川の川辺りにあるために

水陸交通の要所として人が集まり、宗教を広める
にはいい場所でしたが、雨が降るたびに水難に
遭うのが悩みのたねでした。

また、昔の寺は本堂の中にいろりがあり、人々
は火にあたりながら、人間に生まれた喜びや、欲
や怒りのために、大切な命を断つてはいけないと
いう法話を聞いたり、いろいろな相談事をしたり
しましたが、鳥井村には山が無いのでそのいろり
にくべる薪の無いのも悩みのたねでした。

その上、康安元年（一三六一年）に岸村、志摩
村が流されたこともあり、誠願寺の住職は寺を水
難から守り、薪を得るために、豊臣秀吉にお願
いして横根に敷地をもらい、天正十一年（一五八三
年）に鳥井村から横根村に移転しました。

横根の誠願寺には、今もなお、その言い伝えが
残っています。

誠願寺の一世が道性上人（鯖江誠照寺本山二世）



であり、二世が浄観上人じょうかんしょうにんであることから推定すいていすると三百年くらいは鳥井村にお寺があったことになり、今も寺屋敷と呼ばれている所が残っています。



景 制 始 於 鎮 守、
 一、當 寺 奉 祀 氏 祖 事、
 山林竹木等、村故火之事、
 野荒之事、止此、若於違、
 志 難 令 停 止 此、若於違、
 志 難 令 停 止 此、若於違、
 仍 下 知 如 科、
 天正十一年七月 日 瑞 前 寺 (花押)

右は、四百年ほど昔、鳥井村から横根村へ移転うつてんした誠願寺まことねがひに与あたえた豊臣秀吉のお墨付すみづきです。